

# むすぶ31

## 弥彦村社会教育だより

令和5年12月25日  
弥彦村社会教育委員の会

### 《弥彦ユースプランナー第1回協議会から》

10月15日(日)に弥彦ユースプランナー10名全員が参加して、第1回の協議会を行いました。協議の目的は、①これからの弥彦村の理想をイメージし、②村の現状を理解した上で、③ギャップを解決するためのアイデアを出すことでした。大学生2人が進行役となり2つのグループで協議を進めました。互いに発表し合い、アイデアを確認し、3回目のまとめの協議(3月実施)に繋げることとなりました。以下、協議内容のまとめです。(文責 渡辺和)

#### A グループ協議のまとめ

- 話し合い・まとめ資料より一部抜粋(凡例(「☆」理想の村「△」現状や課題「→」解決するためのアイデア)
- 1 村外へのPR** ☆弥彦の伝統をPR ☆移住者を増やす  
△県外での知名度がまだ低い △弥彦村の軸となるイメージがはっきりとしない  
→SNSを活用して弥彦の魅力をアピールする →オリジナルマップを作成し、配布・掲出する
  - 2 観光** ☆観光客が多く訪れる △宿泊施設が少ない △昼間の活気が夜になるとなくなる  
→SNSを活用して弥彦の魅力をアピールする →オリジナルマップを作成し、配布・掲出する
  - 3 鉄道の活用** ☆鉄道車両のラッピング(弥彦色等) ☆鉄道模型店の出店  
△お金が必要 △JRの許可が必要で村単独では実現が難しい  
→JRとの協力が不可欠
  - 4 高齢者の生活**  
☆高齢者のために移動販売車を走らせたい △公共交通が不便(買い物に行けない) △運営費が必要  
→まずお年寄りに話を聞いてみる
  - 5 働く場所** ☆働く場所のたくさんある村 △工業団地などの雇用が限られている  
→地元就職に特化した弥彦限定のハローワークを作る
  - 6 土地利用** ☆もっと弥彦村の面積が大きいと良い  
△市町村合併をしなかった △宅地が少ない  
→(YYPとしてできることはさらに要検討)
  - 7 暮らし** ☆子育てしやすい村 ☆飲食店が多い  
☆子どもがたくさんいる ☆住みやすい  
△公共交通が少ない △病院がない(特に小児科)  
→若者の村の現状に対する思いを集めて、村に提言する
  - 8 大人と子どもの関わり**  
☆大人と子どもの関わりの場を増やす ☆みんなが選挙に行く  
△仕事や家事が忙しい(基本的に平日は仕事)  
→交流の場に積極的な参加する →交流の機会を増やす



#### B ループ協議まとめ

- 1 理想の村**
  - ◆ 設備
    - ・弥彦線の本数増加 ・若者が集って楽しめる場所、遊び場の拡充 ・ヤホールの更なる活用
    - ・気軽に泊まれるホテルの建設及びリフォーム ・弥彦地区にスーパーマーケット設置
  - ◆ イベント
    - ・農業体験 ・気軽に参加可能なイベント
  - ◆ 学校
    - ・小中合同活動 ・通学カバンにリュックサック導入
  - ◆ 観光
    - ・フォトスポット設置 ・弥彦にまつわるモチーフや食材のコラボスイーツ
  - ◆ 飲食
    - ・飲食店の場所の明確化
  - ◆ グッズ
    - ・ミコびよんの活用
- 2 理想に対する現状**
  - ・電車の本数が少なく来訪が困難である。 ・弥彦地区以外でのイベントがほとんど無い。
  - ・イベントに参加することが面倒くさい。 ・どこに何があるのか不明瞭である。
  - ・資金が不足している。 ・従来のやり方や常識にとらわれている。
- 3 ギャップ解消へのアイデア**
  - ・イベントの充実よりも先に環境整備を行う。
  - ・村民と村外人から紙やFormsなどを上手く使い分けて弥彦村がどうなったらより良くなるかアンケートを取る。
  - ・プログラム技術を駆使しながら飲食店や観光地をデジタルマップにまとめる。
  - ・ビジネスホテルやカプセルホテルを設置する。
  - ・ヤヒコラビットボウルを複合アミューズメント施設にする。

#### 感想(本間海那委員)

グループでの話し合いを通して、理想の弥彦村の姿、そして実現するための課題となるもの、また実現するためにYYPとしてできることを考えた。小学生から大学生までいることによって、多角的な視点を持った話し合いとなり、自分では思いつかないような考えにたくさん出会うことができた。その中で現実的な政策実行力を考えた時にYYP

としてできることは、若者と行政機関である村とをつなぐことではないかと思う。若者の思いを我々がまとめ、村に提言することができれば、若者の考えが行政に反映され、今以上に若者にとって住みやすい村となるのではないかと思う。さらに、ＹＹＰが地域づくり交流会等の大人と若者が集まる行事へ積極的に参加することだけでなく、多くの若者へ参加を促すことによって、直接多くの若者が大人と話をする非常に重要な機会を設けることができると考える。

## 《ご協力に感謝 秋のあいさつ運動》

本年度2回目となる秋のあいさつ運動強調週間を11月6日(月)～12日(日)に実施しました。運動期間中は村内各地にあいさつ運動ののぼり旗を設置し、朝の7時半～9時にかけて、弥彦小学校・弥彦中学校、弥彦村役場前～大鳥居、村内3か所の保育園を曜日によって場所を変えながら行いました。昨年度から含め今回で3回目のあいさつ呼びかけ活動となりましたが、回を重ねる毎にあいさつへの関心の高さと、子供達や住民の方のあいさつの声も大きく元気になっているように感じています。運転する車の中からも会釈や励ましの声をいただきました。今後も運動を継続することで、誰もが気軽にあいさつできる環境づくりに繋げていきたいと思えます。

期間中悪天候もありましたが、多くのボランティアの方から協力をいただき、5日間で延べ71名の方が活動に参加してくれました。本当にありがとうございました。(文責 石井)



大鳥居前



小学校玄関前



弥彦保育園園児

## 《第9回弥彦村地域づくり交流会報告》



グループ協議の様子

11月25日(土)に今年で9回を数える「弥彦村地域づくり交流会」が弥彦村役場大ホールで午後2時から行われ、小学生1名・高校生3名・大学生2名を含む34名の参加がありました。広報や小中学校へのPRで参加者を募りましたが、弥彦村社会教育委員の会で立ち上げているSNS(Instagram: インスタグラム)で交流会の開催を知り、当日急遽飛び入りで参加してくれた方もおり、大変有意義な交流会となりました。

交流会の目的は「弥彦村の発展と社会教育の活性化を目指し、地域住民が意見を交換する。地域づくりに携わっている人々のつながりを深める。交流会で出された意見の実

現を目指す。」です。第1部では社会教育委員の会の取組み紹介①「弥彦村あいさつ運動」、②「弥彦ユースプランナー」の取組みを報告しました。第2部では6グループに分かれてのグループ協議を行いました。今回のテーマは「若者を活かすためには何ができるか」でした。最初に緊張をほぐすため、各自が自己紹介をして協議に入り、若者に関して「①若者の村への定着②若者が活躍できる仕組み③若者と多世代との交流④若者の人材育成」の問題点を、班ごとに参加者全員が付箋に書出し、問題をテーマごとにまとめて行きました。その後、問題点を解決する具体策を考え、実現可能なアイデアをまとめました。協議後は、各班のテーブルを回って内容の説明を受けながら、各自が共感する意見や提案には「いいね!」を表す赤丸シールを貼り、参加者全員で各班の提案を共有しました。交流会ではとても活発な協議が行われ、弥彦村も人口減少が進んでいますが、「若者が弥彦村の魅力を感じ定着により人口が増加するには」や、「若者の活躍ができる仕組み」など素晴らしいアイデアが出された協議となりました。特に地域づくりに交流会に参加してくださった学生や若者の積極的な意見が印象に残る交流会でした。

来年度以降も「弥彦村地域づくり交流会」は開催予定ですので、今年度参加した方や都合により参加できなかった方も、また来年お会いしましょう。(文責 石塚)

# 交流会 協議のまとめ

## < 1班 >

- 1 若者の流出問題 ・村へのUターンを確約することで、無利子の奨学金・給付金の制度  
・若い人が働ける場所を作る ・学生がバイトできる場所を作る
- 2 起業を応援
- 3 若者と村との関係構築 ・高校進学すると関係が希薄 ・委員会等に若者が所属していない  
・人材育成できる場が少ない ・若者が意見を言える機会が少ない
- 4 世代間交流 ・村行事への参加呼びかけ ・村全体の音楽祭、交流会
- 5 PR ・SNSでの情報発信を増やす ・若者を呼び込む場所を作る ・人の心をつかむ上手な宣伝
- 6 若者が日常的に集まる場所 ・若者の集まる居酒屋 ・若者が集まって活動する場・機会  
➡ 若者が集まれる場所の創出 多世代交流が必要

## < 2班 >

- 1 若者の村への定着 ・働く場を 大きな工場設置 外国人技能労働者 単身者向けの住宅整備
- 2 若者が活躍できる仕組み ・チャレンジキッチンカーの整備 → 企業とのコラボ 商品開発  
・弥彦にコストコ 若者を育てる（一緒に活動する村にする）  
問題点（スーパー無い、乗り物少ない） → 近くに職場があり住環境が良ければ定着する。
- 3 若者と他世代との交流 ・若者交流施設の建設（交流の場と機会） ・ポケモンゴーとのコラボ
- 4 若者の人材育成 ・スキルアップの場を（スキルアップ講座）  
➡ 全村でフリーWiFi つながる弥彦村

## < 3班 >

- 1 遊び場 ・キャンプ場やサウナを作る ・空き地、空き家を活用して若者との活動場所を作る  
・小中学生の遊び場が少ない。 ・森林公園を若者の手を借りて復活させる
- 2 イベント周知 ・全戸にタブレット配付 ・夜のイベント（酒）開催 → 終電の引き延ばし  
・バラエティロケ（有吉の壁等） ・YYPがイベントを企画
- 3 交流 ・村が提供するラインオープンチャット（思ったことをすぐ書き込める）  
・スポーツを通しての交流 ・YYPをフル活用
- 4 仕事 ・高校生がイベントできる場所 ・職業体験会企画 ・地域交流会に企業を招き具体的な会議

## < 4班 >

- 1 弥彦のお試し ・空き家をお試しレンタル。ルームシェアも可 ・保育園留学  
・マンスリー契約のようなアパート・マンション
- 2 フラッと立ち寄る場所 ・夜の集まる場所（参考 三条市絵本カフェ）  
・閉店時間が早い店 → 地域の人が引き続き営業する仕組み ・公共施設を夜に使うアイデア
- 3 情報発信 ・ミコピオンをユーチューバーとして広報活動 ・女将会キャラをもっと活用  
・SNSで目を引く発信ができる人の起用
- 4 弥彦を発信できる人づくり

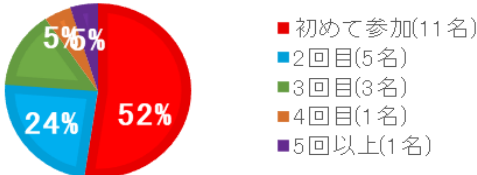
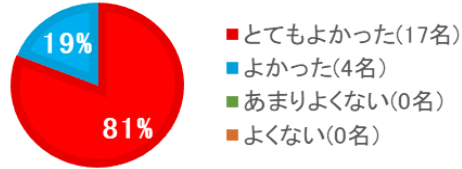
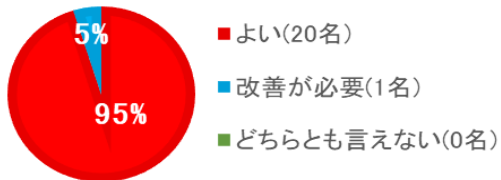
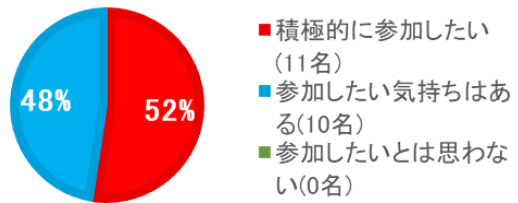
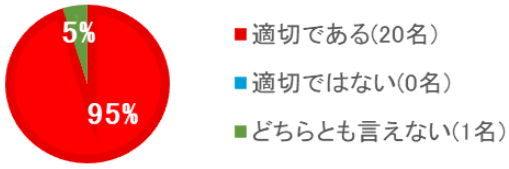
## < 5班 >

- 1 仕事の間 ・NPO法人の立ち上げ（仕事の間） ・農業後継者問題の解決  
・食を大切に「弥彦産〇〇」を作りアピール
- 2 交通 ・電車の時間外に村民バスの運行 ・若い人が電車の免許を取る
- 3 施設 ・競輪場施設が住民のための施設に ・世代ごとにサークル 村民参加型のイベント開催  
・小さい子をもつ世代が遊べる・相談できる施設 ・観光協会をフル活用したイベント開催
- 4 交流 ・大人目線から若者目線へ
- 5 人口減少 ・ネットを使って県外の人を呼ぶ ネット環境を整える ・資金の支給

## < 6班 >

- 1 若者の村への定着 ・村外の若者への情報発信（SNS等）
- 2 若者と他世代との交流 ◎子ども向け広報弥彦を作ろう  
・若者が村民の生き方を知る ・広報の充実（村内、村外、若者向け）  
・地域でのイベント開催（納涼祭等）・イベントを増やす（体・文・祭 地域対抗）  
・小学生と高齢者のスポーツ交流  
※はじめは大人から そこから発信し若者に参加してもらうよう子ども新聞を大人から
- 3 若者の人材育成
- 4 若者が活躍できる仕組み ・小中にYYPの支部を作る +高校生部会 +青年部会  
・YYPを増やしたい 友から友へ 友から学校・家族へ 家族から地域へ  
・高校生・大学生に地域の役割を夏休みや休日に設定する  
・小中学生が参加できるサークルが多種ほしい ・若者をリードする人を増やしたい。  
・サークルを立ち上げる時にマネージャーがほしい

# 交流会 参加者アンケート

<p>1 地域づくり交流会の参加は何回目ですか</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 初めて参加(11名)</li> <li>■ 2回目(5名)</li> <li>■ 3回目(3名)</li> <li>■ 4回目(1名)</li> <li>■ 5回以上(1名)</li> </ul>	<p>(3) 参加してよかったですか</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ とてもよかったです(17名)</li> <li>■ よかった(4名)</li> <li>■ あまりよくない(0名)</li> <li>■ よくない(0名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の方で参加したが、参加者に若い方もいて良い機会だと思いました。</li> <li>・様々な年代の方の意見を聞くことが出来て非常に良い機会だった。</li> </ul>
<p>2 今日の地域づくり交流会について</p> <p>(1) 交流会の進め方について</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ よい(20名)</li> <li>■ 改善が必要(1名)</li> <li>■ どちらとも言えない(0名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を増やす。</li> <li>・良いと思った。</li> <li>・進行がスムーズであった。</li> <li>・現状の弥彦村の実態が分かった。</li> <li>・話しやすく楽しくグループトーク出来ました。</li> </ul>	<p>(4) 弥彦村地域づくりに参加してみたいと思いますか</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 積極的に参加したい(11名)</li> <li>■ 参加したい気持ちはある(10名)</li> <li>■ 参加したいとは思わない(0名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔ぶれが固定化しつつあるので、新たな参加者を増やしてほしい。</li> <li>・休日はアルバイトと折り合いをつけなければならないので、休日開催に加えて平日開催も検討していただきたいです。</li> </ul>
<p>(2) 協議の内容について</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 適切である(20名)</li> <li>■ 適切ではない(0名)</li> <li>■ どちらとも言えない(1名)</li> </ul>	<p>3 社会教育委員の会では、次年度以降も地域づくり交流会を続けていきたいと考えています。今後の交流会についてのお考えをお聞かせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良い会だと思うので続けてほしい。</li> <li>・会場をコーヒーやお茶が提供できる場所にすると良い。</li> <li>・色々な団体と共有すると輪が広がっていく。</li> <li>・交流会で話し合ったことを村の人達に何かの形で知らせてほしい。</li> <li>・知っていたら参加する人ももっといると思うので、何かしらの形でもっと知らせたい。</li> <li>・YYPを生み出したことはスゴイと思います。YYPの人達を活かし、支援する方向性をお願いします。</li> <li>・高齢者の席は前にしてほしい。(見えない、聞こえない)</li> <li>・高校生には難しい内容でしたが楽しかった。</li> <li>・開催の周知を広く行ってもらえると良い。</li> <li>・役場などではなく、村内カフェ等を使って開催するのはいかが。</li> <li>・やはり年配の方が多く若者は意見を言いにくい場面が度々あった。YYPの話し合いの場を更に増やし、まとまった意見を交流会に持って来たい。</li> <li>・もっと大勢の方のお話も聞けたらいいのかと思いました。</li> <li>・開催のPRをチラシだけでなくポスター、SNSで今より積極的にした方が良い。</li> </ul>
<p>4 その他、お気づきの点をお書きください。(来年度のあいさつ運動の取組への意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者記者の活躍はすぐに実現しそうな良いアイデア。</li> <li>・本日の中身を是非、村の上層部にも届けるよう本日の参加者の方々にお願いしてください。</li> <li>・夢のある会ですね。参加して良かったです。</li> <li>・弥彦駅、矢作駅の人が集まる時間帯に行えば高校生、大学生との交流を図ることが出来ると思う。</li> <li>・それぞれのグループで出た事を是非実現できる様に検討して頂きたい。</li> <li>・最後の発言の時に泣いてしまった自分が情けなかった。</li> </ul>	

委員 ◎渡辺和也(矢作) ○柏原路子(麓二区)  
 半間義之(矢作) 石井 亘(井田) 阿部朗子(弥彦) 柏原貴也(麓二区)  
 石塚孝也(矢作) 東樹 薫(美山) 高田美鈴(弥彦) 渡邊友博(井田)

事務局 堀 隆行・白井宏侑(社会教育課)

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、社会教育課事務局にお電話ください。(事務局 94-4311)